廿五日夕刊

磐城新聞

休刊　大祭、第一、第三日曜
定價　壹枚三錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行三十錢　指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

泣き通す花嫁

――婚禮の夜の異聞――

支那の婚禮には珍風奇習が多いが殊にそれは田舎へ行く程甚だしい、順德地方では花嫁が輿入れの時彩輿に登るや否や大聲で泣き叫ぶ、甚だしいのは男家に到着する迄オイ／＼と

泣き 續けて行くそれが昔からの習慣になつてゐるのである、新郎の方では彩輿の着くと寒暑に係はらず手に扇を持つて之を迎へ、當の新婦が輿を出やうとする時その扇で輿を二三つ打ち叩く、やがて一行が門内に入り終ると新郎は庭前に設けられた竹梯子の上に登つて賀客一同から祝盃を受け、それから新婦は舅姑に對面するのであるがこの對面の儀式がトテモ奇抜である、通常舅姑は庭前に方卓を据ゑここに坐つてゐる、すると新婦は先づ跪着のまゝ膝行してその周圍を一周、――どうかすると二周三周する、その間賀客一同は丸で見せ物でも見物する氣でその様子を見てゐるのである、恥しさと苦しさとで大抵の

花嫁 は泣いてしまふといふ、ところが新婦の飲むべき苦難の盃はこれだけではない、やつと膝行の行から放免されたと思ふと忽ち第二の苦難が待つてゐる即ち此度は多勢の會友特に新郎の友人で未婚者が集まつて來て口々にもう口から出まかせの悪口雜言を放ち、或は様々な悪ふざけをして思ふ存分新婦を嬲るのである、それが若し不幸にして新郎が年少で、新夫婦に對して反感を持つてゐるやうな者がゐやうものならたまらない、結局花嫁は何處でも又泣かさる、かうして花嫁にとつて婚禮は終始泣きの涙である、更に福建省石澳地方では婚禮の當日男家の方で美しく飾つた肩輿を用意して新婦を迎へに行くその際には必ず

六人 の少年が各自に紅旗を捧げて先導する、この少年は通常男家の近親知己中比較的裕福な家庭の子弟で、同地方ではこれを「替新郎」と呼んでゐる、この嫁迎への一行が女家の門に到着すると女家では故意に門を閉して入ることを拒む、そこで豫て用意してきた若干の金子を渡すと始めてこれを門内に入れるのである、「索青錢の禮」といふのはこれである、夕刻になると新婦は盛裝して迎への肩輿に乘り盛んな爆竹の音に送られて男家へ行くのであるが、一行の先頭には先の替新郎が立ち輿の後には數人乃至十數人の「新阿姨」（娘）が各自新婦の衣裳箱を脊負つて付き添ふて行く、いよ／＼一行が男家へ到着すると例によつて盛んな

祝宴 が開かれるが、この夜思ひ切つた事には右の「替新郎」と「新阿姨」とは特に寢室内で新夫婦の御招伴をさせられるのが例になつてゐる、そうし新阿姨はその儘泊つて行くのであるが往々新郎が當の新婦よりも好ましい人をその新阿姨の中に見出して新婚早々とんだ悲喜劇が持ち上る事があるといふ、どこ迄も支那は變つてゐる

明日の吉凶
舊曆七月十一日　新曆八月二十六日

▲一白　空想を還しふでたは利に遠ざかり行くべし　▲二黒　心を靜に節約をなし從來の業を守るべし　▲三碧　議遲重するときは災も禍となり來るべし　▲四緑　隱忍して時運の開通を待つが安全　▲五黄　横走りせず本業を眞直に進み行くを安全とす　▲六白　投機には失敗文學上には成功大　▲七赤　今日始めたる事業は永久に亘りて榮べし　▲八白　働きたる割合に効果少き日和合注意の事　▲九紫　これまで苦にし居りし事の始めて成就する日

雜題

佐藤　清長

つく鐘の悲哀をこめて鳴りひゞく
月冴ひ歸る池の畔りに
吾が胸の流れにいつかせきかねて
駒うちとゞむ術ぞしらまじ
よもすがら泣きぬれ明かす吾が胸に
傷くも刻む君のみすがた
ひしゆしと抱きすがりて泣き語る
心にとけぬ戀のしがらみ
心無き雨の一汐降りませば
はかなく消ゆし月の行逢を
たのしみときづなは消ゆぬ朝顔の
ほころび咲かんときに嵐の
亂れ咲く異萩の如き吾が心
いづれ散るべき身にしあれども
永却に形となりてそはすとも
水の流れは變らましもぞ

講談

幕末秘帖　狂怒乱心　(26)

渡邊　默禪作
宮野　歐春畫

「それに就てね爺や」と雪江は何故か後方をふりかへつて低聲になつた「お前に頼みたいことがあるのだが、聞いてお呉れかえ」

「お頼みが？ねえ宜しうございますとも、一生お世話になる貴姐さまの御頼みでげすもの決して否やは申しません、シテ一体どんな御用でございまえ」

「アノ、それはね」としやがんだなりにスツ寄つたがその眼には四邊に氣を遣ふやうなばちを含むやうな一種の光がゆらいでゐた。

雪江は言難さうに忸怩してゐたが

「外の事でもないがね、お前ねアノちよいとね」と何やら口の裡でぐつ／＼

「ね、何でございます？」と興市は耳を寄せて

「ね、ねとおつしやつたつて解りませんがな、それにこの齡の故で些と肉が遠くなりましたから大きな聲で願ひますよ」

「困るわねえ」

雪江は當惑さうに

「アノお使に行つてお呉れな。お手紙のね」囁くやうに言ふ

「ハヽ、お手紙の御使、お安いことだ、そんな御用なら何時でも持つてらつしやい」と無造作に答へたが「併しそれは何處に持つてくんでげす、お里の方へでげすか」

「いゝえ、そうぢやないの」

「ソレ、アノ今のお話さ」

「今のお話？何でしたけかな」首を傾げてゐる。

「あれさ、解らないねえお前も――」雪江は一人で焦れる。

「だつて、あなたの方が解らないことをおつしやるだもの、解る筈はないぢやありませんか、はつきりとおいなさい」

「仕様がないねえ、さとりの悪いにも程度があるぢやないか、ホヽ、爺や梅様だよ」斯ぐ言切るまでに幾回か後方をふりかへるのであつた。

「あ――火消の先生か？」覺わず大きな聲、雪江は悸然として身を起した。

「ねへゝ、えへゝ」と興市は雪江の顔を眺めて薄氣味惡く笑つた。

「あら、何が可笑しいの可厭な爺やだねえ」

「ウフ、ウフ、とう／＼お出なすつたな、どうも變だと思つたよ、彼の時に雜司が谷から屋敷へ着くまでの間といふものは不斷幕なしに先生の事ばかり言ひ續けて恰と何だ熱病患者が譫言でもいふやうに梅様／＼持切つてゐたから、こいつ何にか梅さまに取憑かれたやうだと俺ア陰ながら心配してゐたんだ。アハヽヽヽ、油斷も隙もなるものぢや無ね、今時の娘は機敏もんだ」

「あら、爺やお前何を勘違ひしてるの」と優しい眼で睨みつけて「お手紙を上げると言つたから、おかしくだ思ひなのね」

「なアに、ようございまさア、若い時分には誰でも有勝のこつた、此の爺やだつて、まんざら覺のない譯でもない、是でも印半纏の襟ちよに三尺帶をきゆつと結んだ兄いの時代にやア、方々から懸落や心中の相談を持込まれて振切がつかず能く廻り道をして裏の木戸から出這入をしたくらゐなもんだ、その時に取憑かれた奴怨靈が未だ二三疋ばかり背上に殘つて動かねえから店立を食はさうとするぜう腰の曲つたお婆さんになつちやア、行き所がありやしないから、助けると思つて置いて呉れ、その代り亂の番をして上げるよ、といふやつさハツハツハ」

平町田町通り
市原病院
電話一一四番

今回左記に移轉しましたから御通知申し上げます
平町南町七十四番地（荻原齒科醫院東隣）
福島民報平支局
山田磐磨
電話六一二番

◇映畫界を震駭せし大雄編◇
幕末 [illegible] 異聞
舊盆 特別大興行
文豪・大佛次郎原作
巨匠池田富保畢生の大作
河部五郎、大河內傳次郎
尾上多見太郎、葛木香一
桂武男、酒井米子
櫻木梅子、川上彌生
第一編、第二編再度上映
御期待の第三編、愈々封切
解決編
「地雷の爆發、夏繪の死、お吉は死を賭して地雷火の製造、お吉が點けた導火線は庚申堂に矢の如く、桂の生死？」
舊十四日十五日　盆十六日十七日　ヒル　あります
八月廿七日より
高級常設　平館　電（四六六）

人口激増　生活不安
店員ノ覺醒！
選べ！
一、將來生活ノ安定ヲ
一、模範的組織ニ依ル營業方針ヲ
一、擴張…進カアル…商店ヲ
最モ進歩セル店員待遇法ト右要件ヲ完全ニ備ヘテ……
◇店員ヲ募集ス
一小店員十六歳以下　十名
一店員二十二歳以下　十名
希望ノ者ハ左記ヘ照會又ハ來店ヲ乞フ（旅費當店負擔）
合名會社　つるや呉服店
店主　田舍者（平出身）
三ノ輪店（南千住三ノ輪　電淺草一四九九番）
町屋店（三河島町町屋　電下谷近日開通）　目下建築中十月一日開店

釀造元
銘酒　世界吉
各宴會御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

三益玉炭のお奬め
三井物産會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
値段ハ壹箱金貳圓
個數ハ約八百個內外
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ強ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ喰はずきらいノ人でも一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス
御申越次第見本ヲ持參シテ御覽ニ供シマスカラ御申越下サイ
平驛前
阿部石炭商店
電話二三七番

商標登録
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番　釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話（下谷五七二二番）
振替東京六八三二番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に二千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書戴けば社員が伺ひまして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

耳鼻咽喉科專門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

使つて喜ばれ貰つて重寶な
御中元御贈答には
◎◎◎商品券
三井呉服店

片倉磐城製絲株式會社株式募集
◎株式募集要項
資本金總額　金貳百萬圓
壹株ノ金額　五拾圓
募集株數　壹萬株（總株數四萬株ノ內發起人及贊成人ノ引受株參萬株）
申込株式單位　貳株以上
申込期間　昭和三年七月廿五日ヨリ九月十日迄
申込證據金　各壹株ニ付金貳圓五十錢（第一回拂込金ニ充當）
第一回拂込金　各壹株ニ付金拾貳圓五十錢
第一回拂込期日　昭和三年十月十五日迄トス
拂込ノ方法　後記ノ通リ銀行及會社
募入決定方法　應募株式ガ募集株式ニ超過シタル場合ハ發起人ニ於テ適宜處定ス
片倉磐城製絲株式會社
創立委員長　片倉兼太郎
發起人一同
申込取扱所及拂込個所
株式會社福島縣農工銀行本支店
株式會社平銀行平支店
東京　片倉製絲紡績株式會社
郡山市　同社岩代製絲所
定款目論見書株式申込用紙ハ取扱所又ハ創立事務所ニアリ
創立事務所（元郡役所內）
石城郡養蠶同業組合事務所

中元贈答品
として必ず皆様の御滿足を得る品は
◎タオル箱入　三本　五本
◎敷布箱入
◎沓下
◎縮シヤツ
◎半布箱入
◎ツルヤノ特價石鹸
商品券の御利用は最も便利です
ツルヤ

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
醫學士　佐竹菊雄
内科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

盆三日の平町に 自動車交通禁止
雜沓の萬一を憂慮し 平署が嚴重取締

平町地方は愈々中一日を殘すのみとなつたお盆を前に此の頃ならでは見られない全く特有な氣分が横溢してゐる例年此のお盆期節を當て込んでスリや、空巣覘其の他の犯罪が續出するので平署では既報の如く盆の特別執行をなす事になつたが更に近年異狀の發展を見せ既に

百數十臺を數へるに至つた平地方の自動車は平時に於いても事故を頻發し通行人は不安に滿たされてゐる折柄盆三日の平町の人出は無慮數萬に達するらうし此の人出の中を自動車が疾走すれば勢ひ交通事故の激増する事は勿論で此れが取締方法に就いては猪狩署長も頗る困却してゐたが遂に盆の十四、十五、十六の三日間は午後五時から平市内は一切自動車の運轉を禁止する事に決定市外への乘合は四倉行は鎌田橋、豐間江名行は月見橋、湯本經行は長橋、好間行は古鍛冶路切、赤井行は才槌小路路切を發點とし折返へし運轉せしめ萬一此れを犯すものがあつた場合には營業停止其の他の嚴罰に處す事となり此の旨各營業者に通達したか平署が此の大英斷をもつて交通事故防止の擧に出でた事は各方面から非常に喜ばれてゐる

法華祈禱所を設け 善男善女を騙す
今度は大工町の怪僧に 平署の鐵斧下る

平署では目下大流行を極めてゐる淫宗邪教を撤底的に取締るべく數日前杉平の怪行者を槍玉に上げ更らに捜査の歩を進めて來た結果平町大工町に法華祈禱所を設け頗る大掛りにやつてゐる怪僧のある事を探知今朝未明

件の怪僧 を逮捕本署に引致嚴重取調てゐるが此奴は新潟縣北蒲原郡長浦村生れ石井竹之丞（四九）で郡内各地の善男善女病人等に對し『おいのり』と稱し怪しげな祈禱をなしては金錢白米等の寄附を強要してゐたものであるが石井は窃盗前科一犯あり荷馬車挽をなしてゐた者で勿論いろはのいの字も書けない程度の者であるが此奴の手にかかつた被害者は

約千名に 達する見込で中には郡内著名の有志も十數名ある程で其の手段は頗る巧みで病家等に至つては京の方に釘がある此れがあるから病人が出來るのだ等のネツを吹き其の釘を拔いては『おいのり』を爲してゐたものだが拔いた釘のみにても約二貫匁餘に達してゐる

石城地方は 桑不足
一貫三十錢

石城郡地方秋蠶の發育狀態は目下三齡四齡中でほとんど遺蠶なく溫度も例年に比し低溫のため桑葉もしん長よく蠶兒がほう食した關係上頗便な發育を見せてゐるが桑園は地方全部にわたるしん止玉はへ 發生被害を受けて桑葉の枝桑も徒長せず桑不足の有樣揃立は減じてゐるが桑葉一貫目三十錢見當先高豫想である

平町今年の 合格者抽籤
左記十八名

平町に於ける今年度徵兵檢査の結果甲種合格者十八名の抽籤結果は次の如くである

△歩兵二十二番橋二郎△同百三十八番白土謙次郎△同百〇四番北留川雄一△同四十番近納信義△十五番菊地園次郎△同十四番酒井篤三郎△同五十三番秋山秀雄△同三十九番船山太一△騎兵一番田母重三△野砲兵二十番若松武△山砲兵十三番會川一郎△工兵七番小野一△看護兵二番關内正一△主計兵四番鳥海久助△同一番餘田溽二△輜重輸卒一番田村詩郎△同十三番飯塚春雄△同二十一番松本二郎

四倉町海岸に 賊入る
犯人を嚴探中

石城郡四倉町新町旅館海氣館事豐田美孝方に二十三日午前二時半頃一名の賊が忍び込金庫内から現金三百餘圓を窃取逃走したことを明け方になつて家人が發見直に四倉署に届け出でたので同署では犯人捜査中であるが同町には目下多數の海水浴客が入り込んで居り殊に同館には宿泊客が多いので客中の事情をうかがつてぬすみを働いたものではないかと云はれてゐる

山奥三坂の炭屋に 四人組の怪盜
列車で逃走の途中 舞木驛で逮捕

石城郡三坂村大字差塩製炭業門馬清治方留守宅に二十三日午後三時頃四人組の窃盜押入り現金三十八圓餘を窃取し山傳へに常磐線川前驛午後五時半發ノ列車に郡山驛迄の切符を求めて乘車し同七時四十分三春驛に下車した所を張り込み中の三春署員に發見されるや内二名は同列車で藤木驛迄逃げ延びたが遂に四名共逮捕された三春署で取調べの結果石城郡赤井村赤井筆野信吉（一九）同郡好間村字好間月田勝二（一七）何れも假名茨城縣久慈郡天下野村字六區前科二犯菊地源之助（三九）同郡國田村字國井小田倉豊吉と判明し引續き取調中

社印を偽造し 千圓を横領
湯本運送事件

石城郡湯本町運造株式會社員某は平町一丁目綿引印刷店で社印を作らせ之を盜用して金一千圓を横領着服してゐた事件が此程に至り發覺し平署に於て關係者を召喚嚴重取調中であるが、既報同町鯨岡町會議員が平署の取調を受けたのも此事件に關して參考人としてであつたな横領犯人某は社印を偽造して巧に横領した金で遊興を働いてゐたものらしいと

人妻に懸想して 痴漢亭主を斬る
思ひ切れぬ未練から 昨夜内郷の騷ぎ

宮城縣栗原郡鳥矢崎村生れ當時内郷村大字綴居住齋藤榮松（三七）は昨廿四日午後八時頃同村大字綴佐久間健次郎方に突然及渡三寸餘の剃刀樣の兇器を持つて暴込み健次郎を斬らんとしたが急報に依つて駈付た七海部長の爲めに逮捕され本署に引致の上嚴重取調を受けてゐるが原因は榮松は健次郎の妻トメ（三六）と昨年中から姦通してゐたのを健次郎が知り大騷となつたが過般仲裁人があつて示談をしたものゝトメの美貌に惚れ込んでゐた榮松は遂にトメに對する未練から健次郎を斬らんとしたものであると

鳩ポッポ
平營林署試驗

平營林署では山林保護の目的から通信鳩を飼育し管内各所で通信試驗を試みたこと既報したが非常な好成績で迷ひ子など全然なく而も一時間二十四里の速さで翔り便利この上もないと當局も大いによろこんでゐるが同營林署は管轄區域が非常に大きく最長距離貝泊まで（直岡）六里であるが十五分間にして山林の突發事故を本署に通信し得られるわけで同署では更に嚴密なる訓練を施し中野電信隊の通信鳩と同樣な速力で飛翔するやう訓練を續ける由

事業と人 ……（八）……
篤き信用と誠實
巨萬の取引きも安心 駒場四郎株式店

歐州戰亂の豫期せざる收穫として黄金時代を産むだ大正八九年當時、世は擧げて株式萬能の世界となり此處彼處に新規の株式會社が生れたのである、處が其の後一時に押し寄せた濟界の亂調子が俄かに津浪の如く襲來し、市場を賑はす株式店がその趨勢に伴つて

益々 多忙となり稼く仕事が與へられて來たのである、處が其の間に處し成る一部の惡辣な株屋連は中央と云はず、地方と云はず各地に潜り込み無智にして善良なる者を騙らかし恰かも詐欺横領にも等しい行爲をなしてゐた爲め甚だしく信用を失墜し、株屋とは詐欺や騙りの代名詞の樣にさい思はしめた時代もあつたが惡辣必ず榮えるものでなく

一時 平町に本陣を張つた白銀町の某株式仲買業、及び田町にあつた某株屋の如き各れも或は囚の人となり逃走行衛を晦ます等遂ひに醜き斷末魔を告げたが獨り平町駒場株式店のみは隆々として燦然頭角を現はし信用日に培加しつゝある事は既に世人の悉知してゐる所である

店主 駒場四郎氏は株式界に古き經驗と卓越せる識見を有し其の進退いやしくも一歩々誤らざる獨自の實力と手腕を有してゐる殊に氏が信用を篤ふせる最大の理由は資金の豐富なることにもよる勿論であるが氏の營業是とする確實、安全、迅速の三大主義が一般取引者よりの信用を贈ふに至つた最大の理由である、本郡下は勿論福島、郡山より東京、仙臺方面の各銀行會社や株式店と

確實 なる取引を結び、今や海岸線屈指の信用實力ある株式店となつた、故に一般取引者は五萬、七萬の巨額の取引も容易に信用して託し得るほどに氏の實際的營業は廣く大きく行はれてゐる、地方經濟界は極度に動搖し安危常ならざる折柄、氏の如き堅實なる株式店を有する事は一般の均しく歡迎しつゝある所で益々その發展と伸張とを望むでゐる向きが多い

妻の姙娠を見て ムコ姿を消す
太鼓腹を抱いたアキ 植田署に捜査願

石城郡山田村大字小山田舟木蛭田廣な茨城縣磯原町豊川町小松アキの婿養子として約一年半同棲してゐたが昨年十二月中無斷家出したので原籍地を照會しても不明の處東京方面にゐるとの風評あり心當りを探し求めたが更に判明しなかつたところ廣の親戚なる石城郡植田町八幡下穗坂金太郎なるもの本年一月頃アキ方を訪れて行衛知れぬ男を待つても仕方がないから手切れ金を心配する故夫婦別れをせよといつて歸つたがその後何等の音沙汰もないので人を頼んで交渉したが要領を得ずそのうちに姙娠中とて月が重なるにつれ勞働も出來す親戚知人の厄介で辛うじて生活を續け目下臨月に迫つてゐるが最近廣は新妻を迎へて郷里に戻つてゐる事が判明したのでその非を悟る樣にと植田署へアキから說諭願ひを出した

懸念した程もなく 郡下の秋蠶良績
九月一、二日が出盛り 相場は六圓見當

石城郡地方の秋蠶は掃立當時運日降雨のため發育上に支障を生じたかその後天候恢復により二眠起き頃より盆々經過も良好に日ましに太る蠶に養蠶家は熱心に飼育中であるか早きは既に五齡に達し此處二三月中に上簇一般は廿七八日ごろ上簇の見込であるが遺蠶などは更になく好結果を以て上簇するであらう、秋繭は九月一、二日頃より出廻り七八日ごろ最盛期の模樣であるが五殘、桑葉は例年に比して減少を來してゐる關係上晩秋蠶及晩々秋蠶の掃立は從つて減少の止むなきに至るだらうとの事であるから秋蠶に於て製糸家は相當買入を行ふ事とならうから相場も案外高く結局養蠶家助けの値段が現はれ上物は六圓位の見當で取引行はれるであらうと

梅子を伴れて 賴由歸る
平署餘罪發見

平町字紺屋町金子賴由（三一）は去る五月中同町紺屋町小川梅子（二九）を連れ出し東京方面へ逃走したので平署で行方捜査中の處ろ昨廿四日夕歸平したので猪狩刑事の爲めに逮捕され本署に拘留の上嚴重な取調を受けてゐるが去る五月中平町二丁目水野菊彌方からセル地單衣物外現金約七十圓を窃取した事を自白したが此奴は平町名代の不良青年で餘罪多い見込み引續き嚴重取調を受けてゐる

無燈火取締
平署で嚴重に

昨今遲ばせの暑さで平町內あたりは納涼の人出多く雜踏の中を夜間無燈火で自轉車を乘用するものの多く甚だ危險なのでこれによつて生ずる交通事故を防止するため平署では不日一齊取締をなし違反者は假借なく處分する方針であると

來る九月一日から 玉代一錢の値上
遊興税の割當てから 平藝妓屋組合

平藝妓屋組合では過般來屢々幹部會を開いて協議中なりし現在の玉代一本六十四錢を六十五錢に値上するの件はいよ〳〵九月一日より實行することゝ決したが此値上の理由は現在までの玉代は六十錢で此れに遊興税四錢を加へ六十四錢となつてゐた而して昨年度の遊興税附加税九千六百圓、町税六千九百餘圓、合計一萬六千五百八十八圓八十錢の巨額に達し之れを今年度去る四月から八月までの五ケ月間に於ける玉代上り高は十五萬四千四百四十一本、此の遊興税六千百七十七圓六十四錢にして此率をもつて進む時は殘七ケ月に二十一萬六千二百十六本が上るとも假定しても賦課税に對し一本より四錢八厘を徵收せねばならない結果となるので遂に前記の如く從來の玉代（遊興税くるみ）六十四錢に一錢を增額し六十五錢に値上げするの止むなきに至つたので藝妓屋組合の利得ではなく餘儀なき當然の

樹德院殿　今年新盆に相當致し候も提灯その他の御寄贈は甚だ勝手ながら御遠慮申上候　白井博之

太田町から カネの行衛
平署に捜査願

茨城縣久慈郡太田町滑川兼之助妻カネ（四八）は昨年十二月中突然家出したまゝ行方を晦ましたので家人はカネの行方を八方捜査してゐたが昨今風のたよりにカネは平町の料理店に女中として働らいてゐるらしい事を知つたので夫兼之助から今廿五日平署に捜査方を願出たがカネには情夫があつたらしく或は同棲してゐるのではないかと觀られてゐる

處女會を改稱し 女子青年團組織
來る總會に付議して 幹部會で準備中

石城郡に聯合女子青年團を組織すべく木村高女校長、佐藤平第二小學校長等が八方奔走中であつたが新に組織することは極めて困難なことなので從來組織されてあつた石城郡聯合處女會に改造を施した上名稱を變更した方が都合がよいので來る九月聯合處女會の總會を開き協議上處女會の名稱を單に變更するだけにするか或ひは處女會を解散して新に組織をするを否かを決定する由であるが何れにしても九月中旬頃までには石城聯合女子青年團が組織されることゝなると

四丁目空地に 大櫓
青年連の意氣

平町の盆景氣は日を逐よつて濃厚となり各町內青年連も每夜踊りの練習や櫓大鼓の音も勇ましくその日を待たれてゐるが四丁目青年分團では和泉屋旅館脇の郵便局敷地となる空地に櫓を上げ大いに盆三日を踊り拔かふと意氣込むである

植田繭市場
來る廿八日開場

石城郡植田町繭市場は來る二十八日より開場のことに決したが郡南方部の秋蠶は目下五令盛食期にして低溫の爲め收繭は優良の見込みで出廻りの最盛は九月一日前後であると

平刑務所の 敷地拂下げ
多分平町に

平刑務支所の出張所縮少は明年度斷行することになつて居りこれが敷地賣却につき各方面から拂上げ運動が起つて居るが、當局の方針は伏見平町長から隣接の小學校敷地擴張に是非拂下げられたしとの希望があるので特別の問題が起らない限りは町に拂下げる事になつて居る

六十を越えた飴屋 實は無免許で周旋
女工三十人を喰つて 平署に檢擧さる

平町字紺屋町飴行商人大塚龜松（六二）は今春三月頃から無免許で神谷村大字塩佐藤カネヨ（三六）外郡下各地から約三十名の田舍娘を關東紡績會社平塚工場へ工女として周旋手數料をとつてゐたが事此の程平署に探知され本日即決科料十圓を言ひ渡された

山田民報移轉
福島

民報中支局長山田磐麿氏は二十五日南町七十四番地萩原醫院東隣りに移轉した

自治講習會
二十三日植田町で

石城郡植田町小學校にたいて二十二、三の兩日開催された新村役場吏員の自治講習會は二十三日午後四時終了したので直に終了式を行つたが出席者毎日二十五名で成績頗る良好であつた

途中より一筆

靜岡を後に安倍川を過ぎればあべ川餅の昔ながらの看板に先づ心を誘はれローカルカラーいよ〳〵濃く驛路の風光を貴しつゝ島田に入る、こゝは名に負ふ大井川、橋を渡れば金谷 宿に召しましたはこのた座敷で御座りまするか」の朝顏の歌、空の彼方に開ゆうつゝら〳〵と夢路に入れば天竜川もいつしか超ねて遠州濱松に着きました

八月二十日　遠藤信一郎

磐城新聞社御中

かみくづ

◆九月一日からいよ〳〵新出嫡姐さん達の嚴重な檢査が行ふとあるが尤も臍の上だけだといふので、それぢや何もイヤがることはないと藝者も喜んでるそうだ、アラ臍ばかり眺めて病氣が解るの、ナニ言つてるんだ臍から上の方ばかり診してくれるんだとサ◆ラヂオが流行るせいか此頃の御客はほんとにラヂオばかりね、といふから何事かと思つたら無號のシャレだとサ、丁度いゝや、藝者もラヂオ常習者と來てるから。それで兩方で變な聲を出して放送してるんだらう。ソンナ惡口ばかり言はずに、御順にドド一でも放送しては如何。サア景氣よく彈いた〳〵。